

幽香流華

寺田九空いけばな作品集



幽香流華

寺田九空いけばな作品集

目 次

竹 青 の 花	2
花 語 有 情	20
花	56
花 樂 有 心	74
「じょご頭人生」より	80
東北のハニワ	82
竹青の花器	94
枝 花 蝶 恋	102
華 曼 荼 羅	112



竹青の花

松韻



1973年



1974年



1995年



1992年



1986年





1990年



1995年



1980年



1985年



1986年



1985年



1989年



1990年

花語有情



1996年



1996年



1987年



1977年



1974年



1985年



1989年



1975年

1975年







1983年



1973年



1968年



1969年



1969年



1970年



1992年



1983年



1984年



1985年



1985年



1991年



1985年



1990年



1989年



1993年



1989年



1991年



1990年



1992年



1993年



1991年



1988年



1990年



1994年



1993年

花



1981年





1983年



1984年



1990年



1981年



1991年



1982年



1982年



1990年









花樂有心







1982年



人生の頭脳

味の膳箱

箱膳といってもどんなお膳のことか、わからない人が多いであろう。商工業の本公人は、「金膳」政策で、三度のご飯をいただいたものである。私の農耕を出た当時は、昭和八年不景氣時代で「金膳」政策で、就職もなくブラブラしている人々が多く、ルンペンという新語の生れた時代で、映画にも「大学は出たけれど」といった作品が出て大学は卒業したけれど、就職もなくルンペン生活といった社会風刺の映画であった。父は知人であった高井さんという方の経営していた「高井南膳園」という種物を賣り花栽培していた店に、見習生のようにして私を入れた。高井さんという方は立派の人で教育者でもあった立派な方で、父は私を高井さんから充分に、シゴキをかけてもらうつもりであったと思う。私の十と才の年である。橋山の進退しにある花の農園が私の担当で、人夫、二人と共に、毎日花の手入れや野菜作りであった。朝は五時に起きて朝仕事をしてから八時頃朝食であるが、そのとき初めて箱膳にご面会をした次第である。

本公人の食事は、ゆつくりと時間をかけて味わいながら食べるなどといった、初めはたぐいなく、一分でも早く食べるのがしきたりのようなもので、私の他には四人はどいたが、たぐいなくの早さについてはいけなかったが、三日位で一諸に食べられるようになったものである。

世ではチョット考えられないことである。箱膳は四角の箱型のお膳でフタが付いていて、中に飯茶碗と汁碗と小皿が入っており、朝に食べ、昼に食べ、晩に食べ終わって初めて自分でその食器を洗うのが朝の食事の場合には、暑い手洗に入ると、食器やお膳から独特の臭いを發して異臭を嗅ぐという、食器もなくなってしまうほどで箱膳という、その臭いが今でも鼻に感じるほどである。

昨年私の町内に、花屋さんが引越して来たので、私は毎日のように、花を見たり、花屋さんの人々と雑談するのが楽しんでいたが、その花屋さんは、これまで夫々自立して店を開いていた三人の花屋さんが合同して会社経営に切りかえて發足したもので、その一人に石川さんという方がいる。ある日いつものように、三人で雑談したとき、話しが箱膳のことになると石川さんが「今の人達に箱膳といったら人はいないだろう。俺は本公を六年以上もしたが箱膳の味を知らない人には本公の氣持などわかる筈がない」と化の二人に「この中で箱膳の味を知っているのは俺ぐらいのもんだらう、社長だった阿部君だった昔の人の人だからナア」と大見得を切ったの



で、私が「石川さんにも一人箱膳の味を知っているのがいるんだよ、俺をさしおいて一人よがりしているナア」というと「ナダゲエ先生箱膳オベレゲエ」とびつりしたので、南膳園時代の話をすると、彼は「俺と先生ダバ兄弟分ダア」と大よろこびで箱膳談義がしばらくつづいた。そのとき彼の話しの中で、本公人というものは悲しいもので何時でも腹はへっているし、食べるのが楽しいのひとつで、飯を食うにしても、人より早く、量も多く食べるにはどうすればいいかをよく考え、主人の目をぬすんてくまいてしまおうと私と同じようなことを云っていた。

朝、昼と茶碗を洗わねえということは、一分でも早く飯を切りあげて働いてもらいたいというのが主人の氣持ちであり、早飯を食うということは主人の氣持を感じての本公人の心からである。當時はそれがあたり前のことで、何んの抵抗も感ずることなく本公人は受けていたものである。現在このようなことがあるとすれば、どんなことを云うだろうかかわらないが、當時はそのような事を運して、一人前の社会人が生れ育ったと思う。私の人生にとっては大変よい経験であり、人間形成の上にも、大きな効果のあったことは確かであり、今に於て私は七父に感謝している。

私が箱膳生活のときのこと、今でも思い出すが、今に於て私は七父に感謝している。今の茨島から上時に向う新国道は、当時よりやたらんばの中を通したもので、周囲には家もなく人通りもなかった。或る日私は主人の云いつけて荷車を米、五俵位であったと思うが、積んで登町の店から新国道を運んで、通町の米屋さんに運んだときのことである。米の積み方が悪かったたのである。重心が後方にかかっていた、一町（一〇二〇米）も行かないうちにチヨンと荷車が後になり、私は引き手につかまらなかったまま、プランと中づりになり、それを言うのか直して引いて行く、またチヨン、プランの中づりになり、何回も何回もくり返し、町の中に入ってもチヨンプランの中づりでは、進行く人も笑い出す。あんなに困ったこともなかったが、しかし今ではよく思い出している。箱膳の味とはこんなにも今も考えると、ありがたい味でもあった。

これは付け加えてはがあるが、私がいけばなをこの南膳園で初めて習ったもので、番頭格の石井一三さんという方が、池坊の師匠さんで、その方から生花の手ほどきを受けたのが私のいけばなの最初であり、私といけばなの出会ひでもあった（昭和四六、一一一〇）

九空隨想「じよ頭人生」

竹青書道会創立二十五周年を記念し、昭和四十七年に刊行された隨筆集。



1957年



1974年

貴婦人



1961年



1968年

溪

湖城



1962年

1968年

埋もれた城



1970年

花の城

城



1961年

田神



1961年

1962年



農神



原始家族

1965年



1968年

ひまわり

風の音



自画像

竹青の花器



1977年



1992年



1977年



1981年



1978年



1992年



1990年



1991年

恋蝶花枝



1987年



1987年



1990年



1981年



1990年



1988年





1994年



羅維榮
茶葉
曼華



1990年



1995年



1994年



1982年



1991年



1990年

掲載作品花材リスト

写真

鈴木写真館

乳井写真館

小野写真

表 紙 枯れ向日葵 枯れ蓮葉 杜若
 2P 流水 松 藤曼
 4P 鉄材 藤曼 杉 大山蓮華
 5P 流水 藤曼 板屋楓 青楓 鉄線 杜若
 6P 流水 藤曼 松 桐
 青楓 カラジウム 桔梗 檜 百合 花菖蒲
 8P 藤曼 板屋楓 玫瑰 薔色薔草 太閤 睡蓮
 10P 梅擬 綿太閤 石路 杜若
 11P 藤曼 とど松 梅擬 杜若
 12P 藤曼 青楓 苔梅 薔草 スターチス
 13P 藤曼 もみじ 山法師 花菖蒲
 14P 藤曼 曼梅擬 枯れ木 薔蹄 白椿
 15P 藤曼 曼梅擬 松 真弓 白椿
 16P 藤曼 辛夷 玉羊歯 花菖蒲
 17P 鉄材 藤曼 鉄線 薔草 紫陽花
 18P 流水 藤曼 桐 芍薬
 19P 藤曼 紫陽花 満天星薔蹄
 20P 真弓 白椿
 21P 青楓 鉄砲百合
 21P 南天 菊
 22P 松 青楓 紫陽花 百合
 23P 柏 白椿
 24P 松 板屋楓 芍薬
 25P 青楓 山百合
 26P 真カラー 薔草
 27P 太閤 芍薬
 27P 大門冬 カラー クレマチス
 28P 夏槿 桔梗
 28P 満天星薔蹄 桔梗
 29P 鉄線
 30P 松 すかし百合
 31P 苔梅 花梅 松 薔薇 椿
 32P 松 水仙 白椿
 33P 姫蒲 太閤 鉄砲百合 桔梗
 34P 曼梅擬 トルコギキョウ
 34P 杜若
 35P ストレチアの葉 百合
 36P 松 紫陽花 鉄砲百合
 37P 落葉松 花菖蒲
 38P 松 立日蔭 満天星薔蹄 鉄砲百合

39P 薔色錦木 板屋楓 山百合
 40P 曼梅擬 杜若
 41P 鬼蒲 紫陽花
 42P 花梅 芍薬
 43P 藤 夏槿 芍薬 藤曼
 44P 青楓 花菖蒲 松 金糸梅
 45P 向日葵
 45P 夏槿 薔 木槿
 46P 蓮翅 薔薇 麦
 48P 松 薔薇
 49P 苔梅 笹 百合
 50P 薔蹄 玫瑰 石路
 51P 桐 白椿
 52P 逗松 玫瑰
 53P 松 椿
 54P 柏 鉄砲百合
 55P 逗松 枯れ紫陽花 百合
 56P 竹 若松 花梅 葉牡丹
 57P 薔薇
 58P 苔梅 若松 薔蹄 すかし百合
 59P 南天 大王松 鉄砲百合
 60P 青竹 花梅 薔蹄
 61P 若松 花梅 葉牡丹
 61P 苔梅 花梅 水仙 白椿
 62P カラー 水仙
 64P 桐 花菖蒲
 66P 枯れ木 女郎花 薔草 鉄線
 67P 芭蕉 プリルディア オーニソガラム 鉄砲百合
 68P 太閤 鉄砲百合 紫陽花
 69P 杜若 紫陽花
 70P 夏槿 花菖蒲
 72P 太閤 夏槿 杜若
 73P 太閤 鉄線
 74P 石路 カンパニユラ
 75P 石路 琉球月見草 白根葉の葉
 76P 枝垂れ柳 椿
 77P 椿
 78P 薔蹄
 79P 石路 桔梗
 82P 木片 薔色藤曼 杉玉 カラタチ

83P 鉄材
 84P 鉄材 イモツル プラタナスの実
 85P シャレ木 紫陽花 薄
 86P 鉄材
 87P 鉄材
 87P 鉄材 藤曼 杉 紫陽花
 88P 鉄材 流木
 89P 鉄材
 89P 鉄材
 90P 鉄材
 91P 鉄材
 92P 鉄材
 93P 鉄材
 94P 雪柳 数橋 チューリップ 菊
 95P 松 芍薬
 96P 南天 雪柳 菊 アイリス
 97P 松 日本水仙
 98P 松 花梅 椿 菜の花 すかし百合
 99P 松 白梅 ワックスフラワー
 100P 逗松 白椿
 101P 松 白椿 プバルティア
 102P 苔梅 花梅 白椿
 103P 青楓 芍薬
 104P もみじ 笹百合
 105P 木瓜 白椿
 106P 柿 薔薇
 107P 青竹 花梅 松 白椿
 108P 青楓 笹百合
 109P 白椿
 110P 躑躅 玫瑰
 111P 松 炬石櫛 菊
 112P 藤曼 桐 躑躅 芍薬
 114P 桐 蔓梅梨 鉄砲百合
 115P 蔓梅梨 真弓 枯れ紫陽花 鉄砲百合
 116P 松 藤曼 山法師 アスチルベ 楓
 117P 桐 枯れ桐 椿 木瓜
 118P 枯れ桐 青楓 テルフィニューム 鉄線 百合
 119P 藤曼 椿 満天星 躑躅 プルーファンタ 花菖蒲

寺田九空(正伍) 主な活動歴

半世紀にわたり一貫して文化関係団体の組織づくりで専念、その活動を通して広く県民市民の芸術文化に対する意識の高揚と地域文化の振興発展に大きく貢献した。

戦前・戦後と奉職した秋田県庁を昭和27年に退職したが、昭和22年すでに「竹青華道会」を創流、家元として華道愛好者の育成に努めるかたわら昭和24年県内各流派をまとめ、華乃道同人会（現秋田県華道連盟）の結成に尽力、以来理事長、会長として本県華道界の発展に努め、全国に誇れる組織に成長させた。

昭和32年には秋田市文化団体連盟の結成に奔走、以来副会長、昭和50年から会長として「秋田市芸術祭」等を開催するなど、市民の芸術文化の振興発展と組織の強化に努めた。なお、昭和38年に秋田美術鑑賞協会を、昭和40年には秋田市文化財保護協会を、昭和59年には秋田市の文化を育てる市民の会を設立、市民文化の推進に尽力した。

昭和36年には秋田県芸術文化団体連盟（現社団法人秋田県芸術文化協会）の結成にも尽力、以来常任理事、副会長、昭和50年から会長として、専門家団体をはじめ、県内市町村文化団体の加盟促進など組織の拡大強化に努め、その活動の実態は全国から注目をあつめた。

さらに平成6年には、「全日本いけばな代表作展」の実行委員長として、全国各流の家元52名をはじめ、県内各流から269名の出品をみるなど大成功をおさめた。

また、東北・北海道芸術文化団体協議会会長、全日本文化団体連合会副会長として全国的な文化運動のリーダーとしても活躍した。



主な受賞

昭和38年11月	秋田市文化章
昭和42年	文部省社会教育功労賞
昭和52年	秋田県教育功労賞
昭和53年11月	秋田県文化功労章
昭和53年	文化庁創立10周年記念文化功労章
昭和58年11月	藍綬褒章
平成7年11月	勲五等瑞宝章
平成9年3月	享年81歳にて永眠

~~此香流華~~ 寺田九空いけばな作品集

平成24年10月1日

編集 寺田 美恵子

発行 竹青華道会本部
〒010-0951 秋田市山王二丁目9-20
TEL/FAX (018) 862-4584

印刷 太陽印刷株式会社
〒010-0061 秋田市卸町四丁目7-5
TEL (018) 823-8384 (代)
